

2025年卒業予定者の採用選考が6月1日に正式に解禁されてから1カ月が経ち、就職採用戦線は大きな山を越えた。7月1日現在のキャリタス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は9割近くに達していることがわかった。

前年同時期調査との比較や、先月調査(6月調査)からの変化に着目して、ここまでの活動状況を分析したい。

1. 7月1日現在の内定状況 (※)

- 内定率は89.7%。6月時点(85.2%)より4.5ポイント上昇
- 前年同期実績(86.0%)を3.7ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の79.7%。継続者は「内定あり」「内定なし」を合わせて20.3%

2. 7月1日現在の就職活動量

- 一人あたりのエントリー社数の平均は25.9社。前年同期(24.8社)より1.1社増
- ES提出社数は微減も(13.8社)、面接試験は増加(8.9社)。最終面接は3.5社に

3. 就職活動継続学生の動向

- 選考中企業1.8社、これから受験予定1.6社で、持ち駒企業数は3.4社
- 「新たな企業を探しながら、幅広く企業を広げる」が6月調査より増加(23.6%→28.5%)
- 「企業規模にこだわらずに活動」が5割近くに(47.8%)。「大手中心」は月を追うごとに減少

4. 就職決定企業について

- 就職決定業界は文理とも「情報処理・ソフトウェア」が最多。前年調査より集中度が高まった
- 知ったきっかけは「就職情報サイト」が1位。「就活以前から知っていた」が2位
- この企業で働きたいと思ったタイミングは「インターンシップ等に参加したとき」が最多に

5. 就職決定企業の内定者集合

- 調査時点で「内定者集合があった」41.0%。前年同期(38.4%)より2.6ポイント増加
- 対面参加がこの4年で大幅に増加し、7割強に(2022年卒:18.1%→2025年卒:76.2%)

6. 働き続けたい年齢(現役希望年齢)

- 働き続けたい年齢は、平均62.6歳。全体の2割が70歳以上を回答

※「内定」には、内々定を含む

※「インターンシップ」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

調査概要

- 調査対象：2025年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数：1,123人(文系男子294人、文系女子398人、理系男子272人、理系女子159人)
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2024年7月1日～6日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2025
調査実施：株式会社キャリタス/キャリタスリサーチ

1. 7月1日現在の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は89.7%で、9割近くに達した。今期の内定率は序盤から前年同月を上回るペースで推移してきたが、この7月も引き続き前年実績(86.0%)を上回った。選考解禁が現行の6月になった2017年卒以降のみならず、比較可能な2005年卒調査以降でも、7月としては最も高い数字を更新した。

内定率を属性別に確認すると、理系学生において高く男女とも9割を超える(理系男子90.8%、理系女子93.7%)。

内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは81.6%で、6月調査(66.2%)から大きく上昇。選考解禁を迎え本命企業の結果が出たことで、活動を終える学生が多かったのだろう。

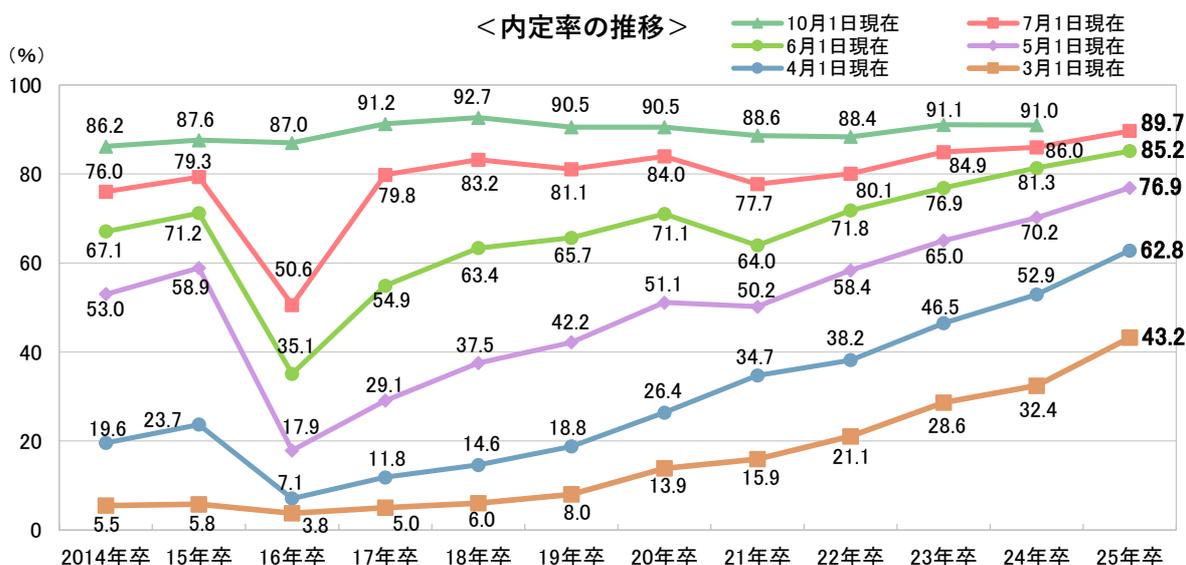
なお、内定取得学生の多くが複数の企業から内定を得ており、内定社数の平均は2.6社に上る。

<7月1日現在の内定状況> *「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		89.7 (86.0)	88.4 (85.3)	88.2 (87.1)	90.8 (84.4)	93.7 (88.7)
内定なし		10.3 (14.0)	11.6 (14.7)	11.8 (12.9)	9.2 (15.6)	6.3 (11.3)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	81.6 (80.8)	76.2 (74.8)	77.5 (78.2)	85.8 (88.8)	94.0 (85.8)
	活動は終了したが複数内定保持	6.1 (4.6)	8.8 (4.6)	8.3 (6.1)	2.8 (3.6)	1.3 (3.0)
	進学などの理由で就職活動を中止	1.2 (0.9)	0.8 (0.6)	0.6 (0.3)	2.4 (1.1)	1.3 (3.0)
	就職活動継続	11.1 (13.6)	14.2 (20.0)	13.7 (15.5)	8.9 (6.5)	3.4 (8.2)

		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.6 (2.5)	2.8 (2.4)	2.7 (2.7)	2.4 (2.3)	2.6 (2.5)

※()内は前年(7月1日現在)の数値

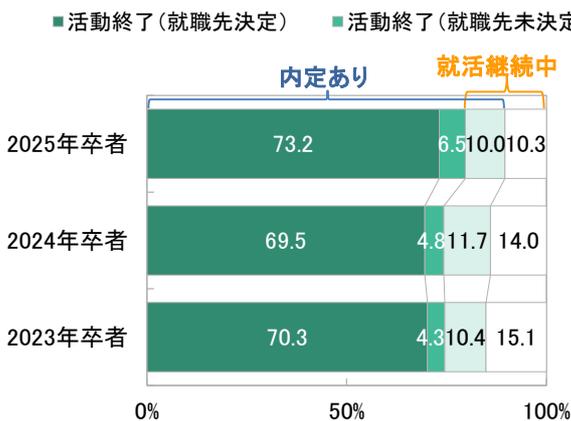


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~25卒は6月

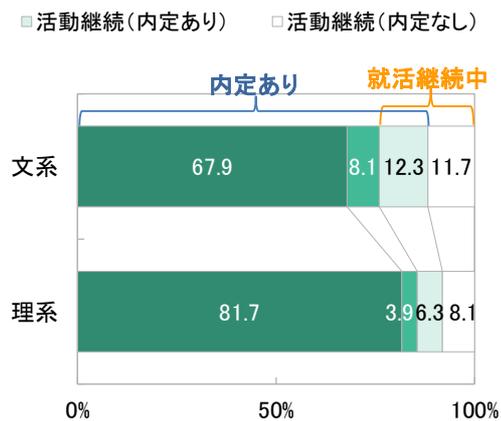
回答者全体を分母にして活動状況を見ると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は73.2%となる。複数内定を保留しているなど就職先未決定である者(6.5%)を合わせて、活動終了者は79.7%。活動継続者は「内定あり」(10.0%)、「内定なし」(10.3%)を合わせて20.3%。

これを文理別に集計すると、文系は内定保持者も含め2割強が継続中と回答(計24.0%)。先月調査(計42.6%)より大きく減少したが、理系(計14.4%)に比べれば多い。

【3カ年比較】



【文理比較】



2. 7月1日現在の就職活動量

7月1日現在の就職活動量(活動社数)を表にまとめた。

一人あたりのエントリー社数の平均は25.9社。3月の解禁時点から前年同月をやや上回る社数で推移しており、7月時点では前年より1.1社増。会社説明会の参加社数も、前年実績を上回る(14.9社→16.6社)。

ただ、エントリーシート(ES)の提出社数は変わらず、本選考に応募する段階で企業を絞り込む学生が多かったものとみられる。ESの通過社数は増加し(9.7社→9.9社)、面接試験も増加(8.6社→8.9社)。面接を受けた企業のうち、最終面接まで進んだ企業は平均3.5社に上る。最終面接の社数は文理男女による大きな差は見られず、いずれも3社台。

<7月1日現在の就職活動の状況(活動社数)>

	(社)					
	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー	25.9	24.8	33.1	28.5	18.4	19.0
会社説明会参加	16.6	14.9	18.0	20.2	10.5	15.1
エントリーシート提出	13.8	13.9	17.3	15.0	9.5	11.2
うち、通過した社数	9.9	9.7	12.5	10.8	6.9	8.0
筆記・適性テスト受験	9.9	9.8	13.1	10.1	7.1	8.1
グループディスカッション受験	3.0	3.0	3.6	2.8	2.7	2.6
面接試験受験	8.9	8.6	11.4	9.4	6.3	7.4
うち、最終面接	3.5	3.3	3.9	3.5	3.2	3.4

※それぞれ経験者を分母に平均社数を算出。(最終面接社数は、面接試験を受けた者を分母に算出)

※オンライン形式も含む

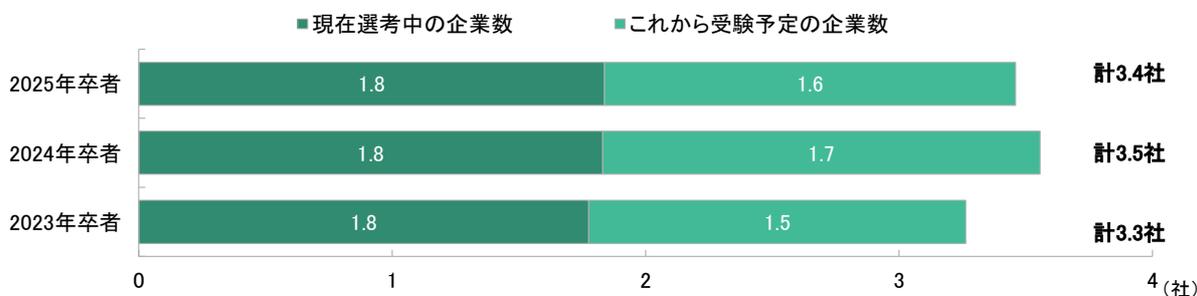
3. 就職活動継続学生の動向

内定保持者も含め、7月1日時点で就職活動を継続している学生（モニター全体の20.3%）の、現在選考中の企業数は平均1.8社。これから受験予定の企業数1.6社を足し合わせた、いわゆる持ち駒企業数は3.4社。

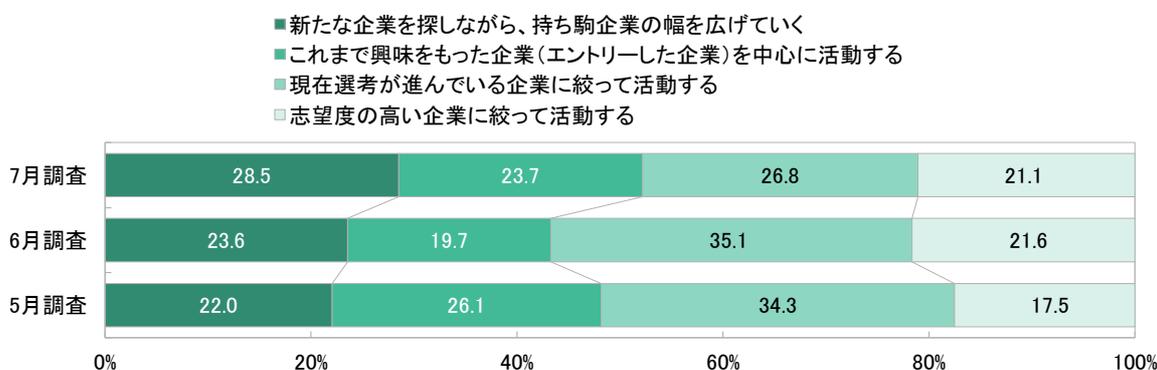
今後の方針・戦略について3カ月間の推移を見てみると、5月・6月調査では「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」が3割超を占めていたが、7月は2割台に減少（26.8%）。「新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく」という回答が最も多くなった（28.5%）。持ち駒企業が少なくなってきた学生を中心に、夏採用などに向けて視野を広げて仕切り直そうとする動きが見られる。

また、3月時点では半数以上の学生が業界トップや大手企業を目指していたが（計61.6%）、7月調査では計41.3%まで減少した。一方で「規模にこだわらずに活動する」割合は徐々に増えていたが、6月から7月にかけてさらに伸び、5割近くに上る（47.8%）。

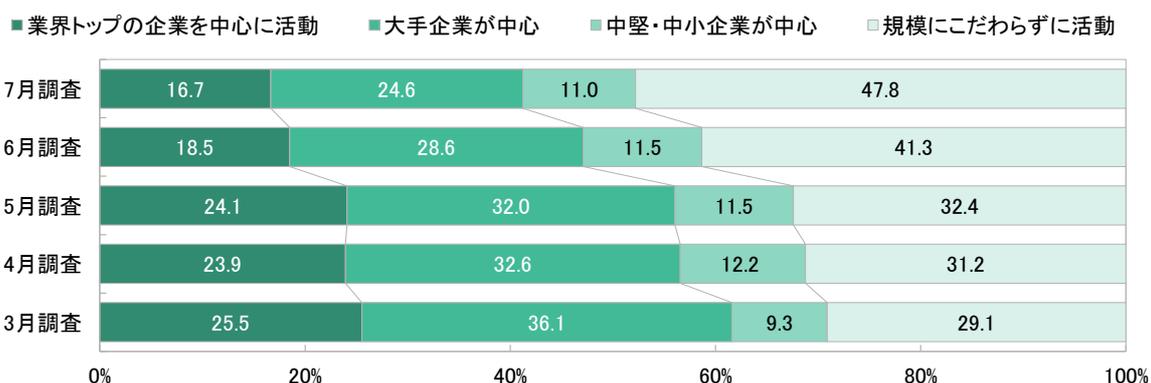
<7月時点の持ち駒企業数>



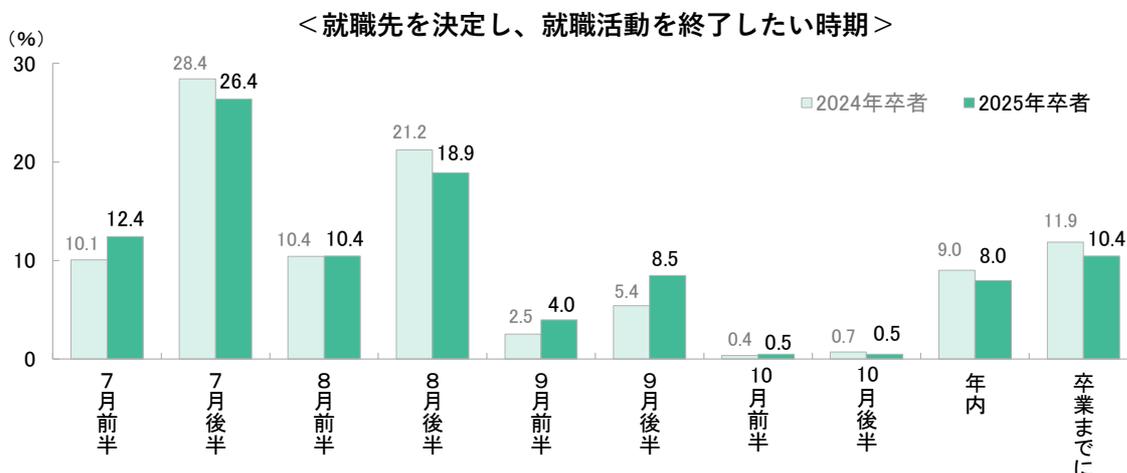
<今後の就職活動の方針・戦略>



<就職活動の中心においている企業規模>



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期は、前年調査と同様に「7月後半」が最も多い(26.4%)。7月前半から8月後半までを合わせると7割近くとなり(計68.1%)、継続学生の多くが夏のうちに決めたいと考えていることがわかる。10月1日の正式内定日にこだわらず、「年内」や「卒業までに」など、長期戦を想定している学生は合わせて2割程度みられる(計19.4%)。



4. 就職決定企業について

ここからは就職先を決定して就職活動を終了した学生(モニター全体の73.2%)のデータを確認したい。

まず、就職決定企業の業界を見ると、文理ともに「情報処理・ソフトウェア」が今年も1位。前年よりもポイントが増え、集中度が高まった。文系は上位5位まで前年調査と同じ順位で、2位「銀行」、3位「調査・コンサルタント」、4位「建設・住宅・不動産」、5位「商社(専門)」「運輸・倉庫」の順。

理系の2位は「建設・住宅・不動産」、3位は「自動車・輸送用機器」で、どちらも前年より1つ順位を上げた。4位「電子・電機」(前年2位)、5位「素材・化学」の順。

<文系>

2024年卒者		%	2025年卒者		%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.4	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.8
2位	銀行	8.2	2位	銀行	8.5
3位	調査・コンサルタント	6.6	3位	調査・コンサルタント	6.0
4位	建設・住宅・不動産	5.8	4位	建設・住宅・不動産	4.9
5位	商社(専門)	5.4	5位	商社(専門)	4.7
6位	運輸・倉庫	4.2		運輸・倉庫	4.7
7位	マスコミ	4.0	7位	その他サービス	4.5
8位	その他サービス	3.8	8位	保険	4.3
9位	情報・インターネットサービス	3.6	9位	電子・電機	4.0
10位	保険	3.4		マスコミ	3.2
	専門店	3.4	10位	エネルギー	3.2
				ホテル・旅行	3.2

<理系>

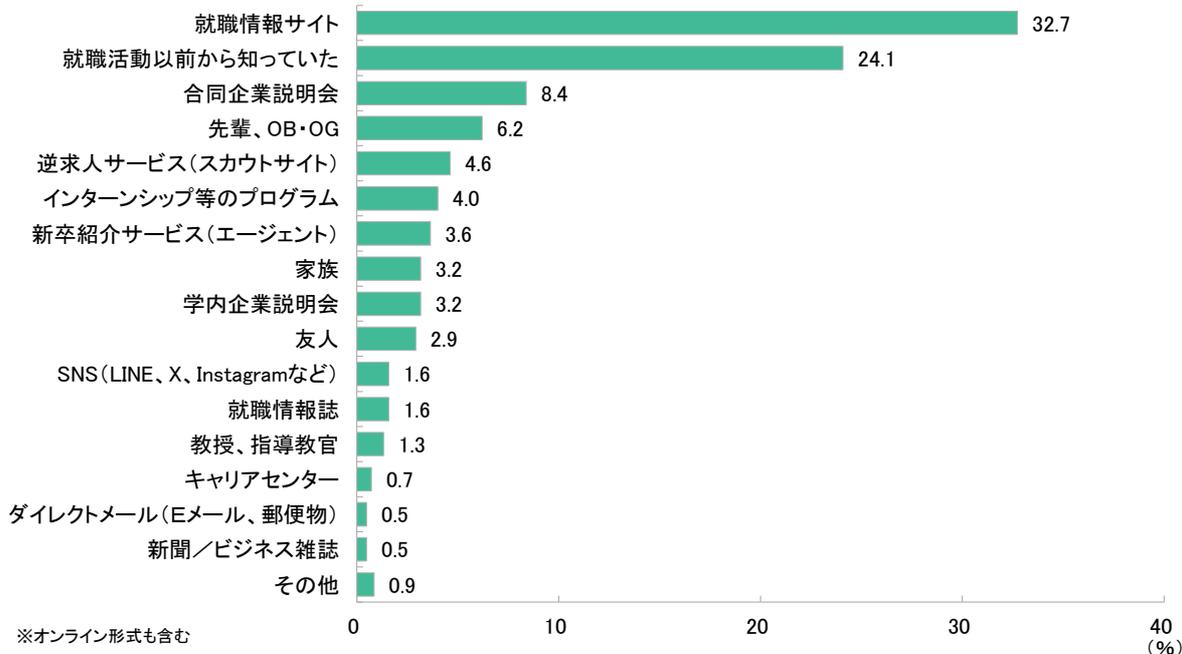
2024年卒者		%	2025年卒者		%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.8	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.6
2位	電子・電機	11.4	2位	建設・住宅・不動産	11.6
3位	建設・住宅・不動産	11.1	3位	自動車・輸送用機器	10.5
4位	自動車・輸送用機器	7.8	4位	電子・電機	8.2
5位	素材・化学	7.5	5位	素材・化学	7.4
6位	機械・プラントエンジニアリング	6.1	6位	機械・プラントエンジニアリング	6.3
7位	水産・食品	5.3	7位	医薬品・医療関連・化粧品	5.7
8位	調査・コンサルタント	4.4	8位	水産・食品	5.4
9位	エネルギー	3.1	9位	調査・コンサルタント	4.3
	精密機器・医療用機器	3.1	10位	精密機器・医療用機器	3.4
	通信関連	3.1			

※40業界のうち上位10業界を掲載

※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

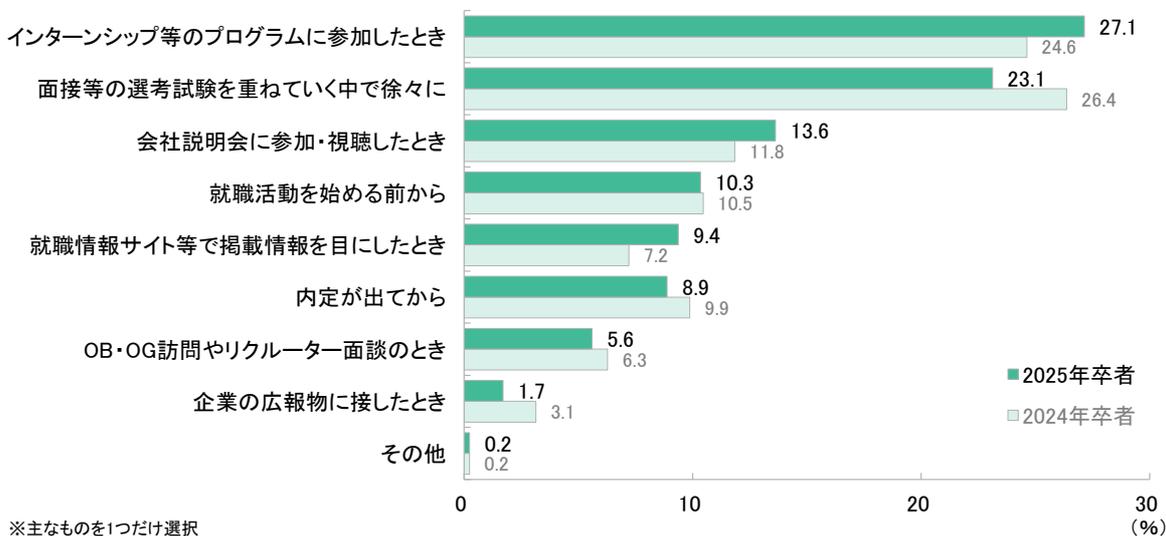
就職先企業を知ったきっかけは、「就職情報サイト」が32.7%で突出している。学生にとって「就職活動の入り口」として、大きな役割を果たしていることがわかる。次いで「就職活動前から知っていた」が24.1%で続く。「合同企業説明会」が3番目に多いが、以下はポイントが分散しており、様々なサービスやメディアが企業との出会いの場となっている様子が表れている。

<就職決定企業を知ったキッカケ>



就職先企業で働きたいと思ったタイミングを尋ねると、最も多いのは「インターンシップ等のプログラムに参加したとき」(27.1%)。前年調査では2番目だったが、今年は最多となった。プログラムへの参加を通して早い段階から就職先として意識し、そのまま選考、内定へと繋がる学生が増えたのだろう。「面接等の選考試験を重ねていく中で徐々に」は、前年調査よりポイントが下がったものの2番目に多く(26.4%→23.1%)、面接官との対話を通して企業への理解を深めたり、社風を感じ取ったりしながら、徐々に入社意欲を高めていく学生も少なくないことがわかる。

<就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング>



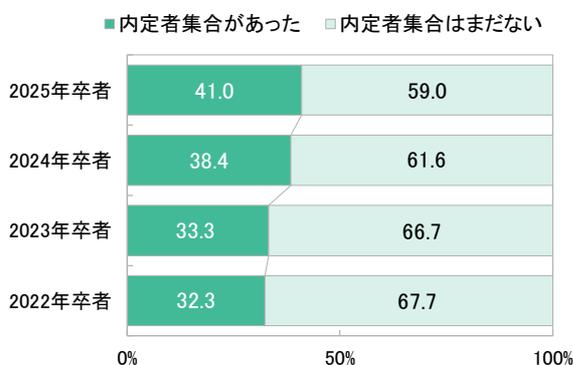
5. 就職決定企業の内定者集合

就職先を決定して就職活動を終了した学生に、内定者集合について尋ねた。

7月初旬の調査時点で「内定者集合があった」という回答は年々少しずつ増加し、今年は4割を超えた(41.0%)。企業が内定後のフォローに注力し、積極的に実施している様子が読み取れる。参加形式については、コロナ禍だった4年前はオンラインでの参加が8割を超えていたが(81.9%)、今年は対面での参加が7割強を占める(76.2%)。

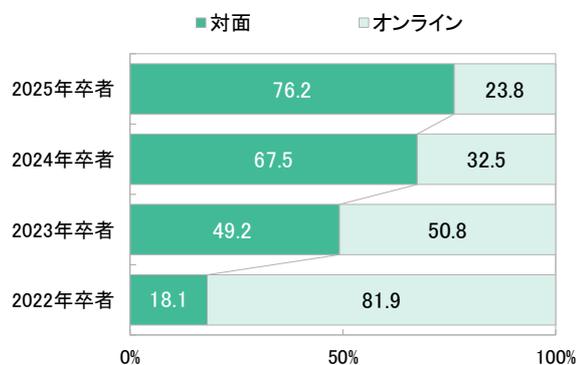
参加した学生の声を確認すると、対面形式では職場見学や先輩社員を交えた食事会などを通して社風や仕事への理解を深めたりした様子が見て取れる。オンライン形式への参加者からは、ワークやレクリエーションなどで親交を深めた様子などが報告されている。

<就職決定企業の内定者集合の有無>



※各年7月調査

<内定者集合の形式>



■内定者集合の内容

【対面】

- 内定者懇親会。前半は先輩社員のキャリアの実例をもとに、自分のなりたい像をイメージするグループワーク、後半は先輩社員と内定者で立食パーティーを行った。 <情報処理・ソフトウェア>
- 採用部長のお話、オリジナル謎解きゲームによるアイスブレイクと本社の見学、内定者同士で会話できる自由時間があった。 <機械・プラントエンジニアリング>
- グループ毎に自己紹介をし、先輩社員も含めてカードゲームを行った。軽食を食べながら、先輩社員に色々質問をした。 <運輸・倉庫>
- 本社で内定者同士の顔合わせや、役員クラスの社員を交えた懇談会があった。 <銀行>
- 内定者交流を兼ねた研究所、工場見学会。 <素材・化学>
- BBQ形式で、席替えをしながら内定者同士、またリクレーターの方と話した。 <人材サービス>
- 内定者懇親会。オープンサンド作りや内定者同士で簡単なゲーム、会話を楽しむ会が開催された。 <食品>
- 内定者同士の自己紹介。開発現場の見学、社員の方の自動車についての講義と社員との懇親会。 <輸送用機器>

【オンライン】

- 全コース内々定者を集めての説明会と懇親会。事前に自宅に送られてきたお菓子とビールを片手に、同期とオンラインで交流を深めた。 <通信>
- 人事部長の話や、グループ内の内定者との交流会。班対抗のクイズ大会をした。 <精密機器>
- 若手社員の方との面談会があり、入社前に準備することや、入社後の研修内容について教わった。 <情報処理・ソフトウェア>
- 技術系の内定者の交流会。自己紹介や、グループワークを通じて仲を深める内容。 <建設・住宅・不動産>
- 内定者の自己紹介と入社までの案内。職種関係なく交流できたので色々な学生の話聞くことができた。 <マスコミ>

※<決定企業の業界>

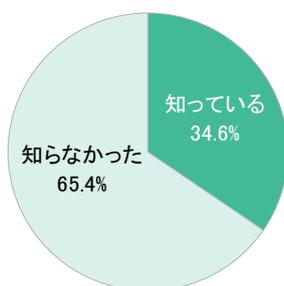
6. 働き続けたい年齢 (現役希望年齢)

「高齢者雇用安定法」の改正に伴い、2025年4月1日以降はすべての企業で「希望者全員に65歳まで雇用機会を確保すること」が義務付けられる。その認知度を尋ねたところ、「知っている」と回答した学生は3割強(34.6%)に上った。

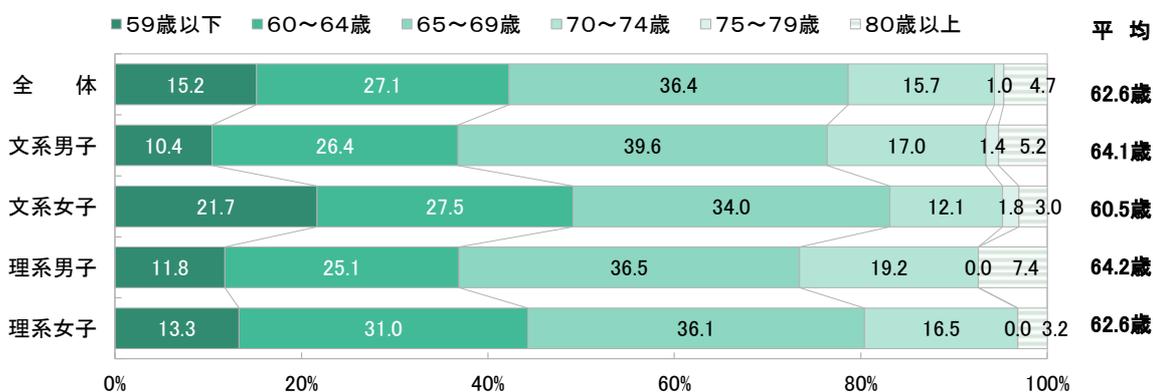
また、最初に入社する企業に限らず、自身は何歳くらいまで働きたいと思っているのか(現役希望年齢)についても重ねて尋ねた。現役希望年齢の平均は62.6歳。分布を見ると、文理男女問わず「65~69歳」が最も多く、次に「60~64歳」が続く。「70歳以上~」は全体の2割程度(計21.4%)。

現役希望年齢を選んだ根拠としては、金銭面についてだけでなく、体力や余暇とのバランス、社会との関わり方など、様々な観点から声が寄せられた。

<高齢者雇用安定法改正の認知度>



<自身が働き続けたい年齢>



■その年齢まで働きたいと考える理由

- 奨学金を完済できる年齢だから。 <45歳/文系女子>
- お金に困らないくらい資産形成をしたら労働を辞めると思う。現実的に可能なラインが50歳。 <50歳/文系男子>
- 家庭を持った際に、大学生まで育て上げるとなると50代後半までお金が必要であり、その後の老後資金等も考えると、60歳くらいまで働くのが望ましい。 <60歳/文系男子>
- 代々、父や祖父が60歳まで働き、その後が楽しそうだから。 <60歳/理系男子>
- 年金に頼れない世代だと思うので、ギリギリまで働いて老後の資金を貯めたい。 <65歳/理系男子>
- 自分の周りの65前後の人は元気で明るい人が多く、私がおその年齢になってもまだ働けそうと感じだから。 <68歳/文系女子>
- 自宅でじっとしているよりも、体を動かして、社会の中で人との関係性を保ち続けたい。 <75歳/文系女子>
- 人生100年時代なので、稼げるだけ稼ぎたい。 <80歳/文系女子>
- 死ぬまで現役で働きたい。 <100歳/文系男子>

※<このくらいまで働きたい年齢>